

# 親子聖書日課

NO.1572 2018.11/11-17 名前

[日]「生かすも殺すも神したい」とは本当です。神は私達の生も死も、御手に握っています。神に生かされるためには、御言葉を適当に守ってはいけません。「全ての言葉を心に留め、全て忠実に守る」ことです。人生は必ず祝福されます。

[月]モーセは神からの祝福を頂いた時、独り占めせず、全ての人と分かち合いました。祝福は泉のように、分かち合うと湧き出てきます。祝福(福音)を多くの人と分かち合うことで、「主の救われた民」の中に、家族や友人がいるとしたら、幸いです。

[火]モーセは約束の地に入れませんでした。主の御業を示した見事な生涯でした。その秘訣はみ言葉に聴従したからです。私達も「ピスガの山頂」である信仰の高値を目指しましょう。そうすれば、信仰のバトンの後継者に渡せるでしょう。

[水]ヨシュア記は、モーセの後継者ヨシュアに率いられた民が約束の地を征服したことが記されています。迫力満点の戦国記です。戦いで大切なことは「ただ強く、雄々しく」あることです。自分の強がりではなく、「主が共にいる」ので可能です。

[木]拉致被害者救出の「青いリボン」ならぬ、「赤いひも」が記されています。この赤いひもは過越の血、主の十字架の血を表します。この血によって、自分だけでなく、家族も救われます。「赤いひもを結びつける」ためには、主を信じ、証することです。

[金]ヨルダン川が2つに分かれた奇跡は、紅海の奇跡とそっくりです。民の先頭に立ったモーセの杖が、契約の箱になりました。それは今日では、主の十字架です。主を先頭にして、主に身を委ねる時、どんな激流もせき止められ、救われるのです。

[土]主の御業をただ感動し、喜んではいけません。感動はいつか忘れるものです。ヨシュアは主の御業を忘れないように、「12の石を立て」記念としました。私達も主の十字架の死を記念して、「主の晩餐式」を行うのは、主の御業を思い起こすためです。



|   | 聖書              | 問題                            | 答え |
|---|-----------------|-------------------------------|----|
| 日 | 申命記<br>32:28-52 | この律法の言葉はむなしい言葉でなく、あなたたちの何ですか。 |    |
| 月 | 33:1-29         | 主に愛される者は、その傍らにどのように住みますか。     |    |
| 火 | 34:1-12         | モーセはどこに登りましたか。                |    |
| 水 | ヨシュア記<br>1:1-18 | 主はどのようであれとヨシュアに命じましたか         |    |
| 木 | 2:1-24          | ラハブは何を窓に結びつけましたか。             |    |
| 金 | 3:1-17          | ここに来て、あなたたちの神、主の言葉をどうすべきですか。  |    |
| 土 | 4:1-24          | これからの石は、永久にイスラエルの人々の何になりますか。  |    |
|   | 感想と祈りの課題        |                               |    |







